

E-18 両親の結婚生活と同一視に関する因子分析的研究

東京学芸大 田村 喜代

1. 人は環境に支配されると同時に、新たな環境をも構成して行くという。ここでの環境とは、人の行動を規定する意味での心理学的環境をいい、親子間の性向の類似はこうした家庭環境の中で形成される。本研究は青年自身の把握による両親の結婚生活実態と、同一視との関連から青年の結婚に対する予測を求めようとする。

2. 結婚生活に関する諸項目を参照検討し、尺度化が可能と思われるもの父母各 114 項目について、予備調査を実施し中39項目を選択、本年1月質問紙法によって大学3年生に調査を行なった。今回の試料は 388 名の女子学生のみである。なお、同一視の質問項目は父母各 30 項目で、共同研究者八重島が同時に調査分析を行なった。

3. 各項目のカテゴリーに得点を与えセントロイド法因子分析によって、父母別にⅢ個の因子を抽出した。次に望ましい結婚生活の観点から、研究協力者3名で評定を試み、父母に共通する13項目を定め、各因子との関係を見た後、得点による上下2群にサンプルを分け、同じく因子分析された同一視のプロフィールから(9因子)6項目を選んで比較を行なったが、友達に父母を自慢したいと思う者は、両親の結婚生活を性格や態度において好ましいと評価しているなど、統計的有意差を得たものについて報告する。本研究は「家庭における人間関係と青年の人格形成」依田新による総合研究の一部である。